

第 6 章

林 業

## 第 6 章 林 業

### 概況

大阪府の森林は、都市化が高度に進んだ大阪平野を北から北摂、金剛生駒及び和泉葛城の三山系により取り囲むような形で位置しており、林業の基盤としてだけでなく、天与のグリーンベルトとして、水源の涵養、山地災害の防止、保健休養等の多様な公益的機能を果たしている。

これを森林植物帯からみると、大部分は暖帯林で、一部には温帯林も見られる。しかし、現在の森林は大部分が「あかまつ」、「くぬぎ」、「こなら」等の二次林、あるいは「すぎ」、「ひのき」等の人工林である。なかでも、金剛、葛城山系では「すぎ」、「ひのき」が集中し、府内で最も集約的な林業が営まれている。

### 林家数

大阪府の林家数は2000年世界農林業センサス(平成12年2月1日現在)によると、1万540戸である。その内訳は農家林家数が1633戸(構成比15.5%)、非農家林家数が8907戸(同84.5%)で、非農家林家が圧倒的に多い。

### 林野面積

大阪府の林野面積は5万6712haで、前年より90ha減少した。

その内訳をみると、民有林野面積は5万5453haで前年より88ha減少し、国有林野面積は1039haで前年より1ha減少し、官行造林面積は220haで前年より2ha減少した。

大阪府総面積18万9373ha(平成15年4月1日現在)に占めるそれぞれの割合は、国有林野面積が0.5%、民有林野面積が29.3%、官行造林面積が0.1%である。

府内の林野面積の97.8%を占める民有林野のうち、立木地は5万2788haで前年より91ha減少し、民有林野面積の95.2%を占めている。その内訳は、人工林が2万7039ha(構成比51.2%)、天然林が2万5885ha(同48.8%)となっている。また、樹種別内訳は針葉樹

が3万8618ha(構成比73.2%)、広葉樹が1万4169ha(同26.8%)となっている。

民有林野面積を市町村別にみると、能勢町が7682ha(構成比13.9%)で最も多く、河内長野市7318ha(同13.2%)、高槻市4488ha(同8.1%)の順となり、この3市町で全体の35.1%を占めている。

### 林野蓄積量

大阪府の林野蓄積量は763万8000m<sup>3</sup>で、その内訳をみると、国有林野蓄積量は17万1000m<sup>3</sup>で前年より5000m<sup>3</sup>減少した。

民有林野蓄積量は746万7000m<sup>3</sup>で前年より5万m<sup>3</sup>増加し、官行造林蓄積量は1万2100m<sup>3</sup>で前年より5000m<sup>3</sup>増加した。

民有林野蓄積量のうち人工林は477万m<sup>3</sup>(構成比63.9%)、天然林は269万8000m<sup>3</sup>(同36.1%)である。また、樹種別内訳は針葉樹が661万8000m<sup>3</sup>(構成比88.6%)、広葉樹が85万m<sup>3</sup>(同11.4%)である。

民有林野蓄積量を市町村別にみると、河内長野市が126万6000m<sup>3</sup>(構成比17.0%)で最も多く、以下、能勢町82万m<sup>3</sup>(同11.0%)、高槻市62万1000m<sup>3</sup>(同8.3%)の順となり、この3市町で全体の36.3%を占めている。

### 苗木生産量等

山行造林用苗木の生産量は9万6000本で、前年より3万3000本(34.4%)減少した。樹木別にみると、「ひのき」が7万6000本(構成比79.2%)で最も多く、以下、「くろまつ」が1万本(同10.4%)、「すぎ」が6000本(同6.3%)となっている。

大阪府内の林産物素材の生産量は2万m<sup>3</sup>で、前年と同じであった。林産物素材の入荷量(府内生産量を含む)は6万2000m<sup>3</sup>である。

### 市町村別森林資源面積（私有林）（平成17.3.31）

